

日本人の間違えやすい外国語

——中国語…本学科，中国語専攻2年生の解答例を中心に——

塩山正純

Abstract

When Japanese learner write a composition in Chinese, they are likely to affect by their mother tongue, make error in the arrangement of word and the choice of vocabulary. About these two cases, in this paper, I will give concrete examples, explain in detail the cause of mistake which Japanese learner make.

0. はじめに

「日本人の間違えやすい外国語」シリーズ第2回で、中国語について、学習者の典型的な誤用例を紹介し、解説することになった。しかし、現在では類義語や誤りやすい表現などのタイトルで、すでにあまたの文献が存在し、それぞれ系統的に懇切丁寧な解説がなされている。そこで、本稿では筆者が自ら担当する授業を通して感じたこと、わかったことを、いくつか示してみることにした。なお、発音練習の段階での問題や、発音表記のうろ覚え等々、努力不足、勉強不足が主な原因と思われる間違いについては触れないことにし、あくまで母語である日本語の影響によって生じる翻訳における間違いのみを対象とした。本稿中の誤用例は授業中や春、秋学期それぞれの期末試験における学生の回答をもとにしている。

本学科では未習外国語は1年の秋学期から初めて学習することになっていて、1セメスターの間に一応の基礎をつけることになっている。そして2年生を終わる頃には、中級レベルの教科書の本文を日本語に翻訳させると、必ずしもきちんと理解しているとは言えないものもあるが、母語の力に助けられてほぼ誤りなく正しい日本語にできる段階に達していると言える。

では、どんなところでひっかかるかと言えば、やはり日本語から中国語に翻訳するときで、こんどは、逆に母語である日本語の影響が、翻訳した中国語の語順や語彙の微妙なニュアンスの違いとして少なからず現れ、間違った表現ができてしまうのである。そして、もう1つこのような間違いがおこる原因に、教える側の説明不足や分かりにくさも付け加えておかねばならないが、それはひとまず棚に上げておく。

それでは次に、日本語から中国語への翻訳における誤用例を「語順での間違い」と「語彙での間違い」の2つのパターンに分けて、具体的な例を挙げてみたい。なお、例文中で、(～課)とあるのは荒川ほか『中国一人と暮し』の本文からの引用である。

1. 語順での間違い

それぞれ冒頭の日本語に対して、最も多かった誤用例を1つずつ挙げている。代表的なパターンは日本語の語順に、知っている中国語の語彙を当てはめていくというものである。

1) どんな話題に対しても、私たちは興味をもっている。

(誤) 什么话题对于，我们都感兴趣。

(正) 对于什么话题，我们都感兴趣。

日本語の語順にあてはめたパターンである。‘对于’は前置詞として‘对于什么话题’という句にしなければならない。誤用例では、品詞を覚えなくて、‘对于’イコール「…に対して」としてしか覚えていないと思われる。

2) 冬になると、いつも何度か大雪がふる。

(誤) 一到冬天，总是要几场下大雪。

(正) 一到冬天，总是要下几场大雪。

日本語の語順にあてはめたパターンである。まず‘下雨’（雨が降る）や‘下雪’（雪が降る）をこれ以上分解できない語彙として覚えている可能性がある。‘场’は2声で読み、風雨・戦闘・病気・災害などの回数を数える量詞である。語順は当然、「動詞＋（数詞）＋量詞＋名詞」となり、例えば、

下了一场雨。

(ひと雨降った。)

のようになければならない。

3) 誰もが誰の表情もちゃんと見えない (お互いの表情がちゃんと見えない)。

(誤) 谁也谁的表情看不清。

(正) 谁也看不清谁的表情。

日本語の語順にあてはめたパターンで、動詞と目的語の位置関係をきちんと把握していないケースである。

4) 彼女は私にとっても沢山の果物を持ってきてくれた。

(誤) 她给我很多水果送来了。

(正) 她给我送来了很多水果。

これも日本語の語順にあてはめたパターンで、動詞と目的語の位置関係をきちんと把握していないケースである。

5) 宿舎には洗濯機が1台しかなく、午後4時になって、やっと服を洗いはじめた。

(誤) 宿舍里只有一台洗衣机，下午四点到了，才洗上衣服。

(正) 宿舍里只有一台洗衣机，到了下午四点，才洗上衣服。

日本語の語順にあてはめたパターンである。誤用例の‘下午四点到了’では言い切りのかたちになり、しかも「(予定していた、或いは待ちに待った)4時になった」という意味になってしまう。

6) ここは春滅多に雨が降らない。

(誤) 这里春天下很少雨。

(誤) 这里春天下雨很少。

(正) 这里春天很少下雨。

誤用例の前者は‘下+大雨’と同じかたちと考えて、‘下+很少雨’としている。後者は「雨が降る(ことが)+滅多にない」と考えた結果、‘下雨+很少’という語順にしたのであろう。‘很少’は連語で連用修飾語として「稀である」「めったに…ない」という意味を表す。例えば、

她平时很少说话，但是对工作却很认真。（5課）

（彼女は普段めったに話をしないが、仕事に対してはとても真面目だ。）

中国人和熟人打招呼的时候，很少用‘你好’。（9課）

（中国人は知人と挨拶をするとき、滅多に‘你好’を使わない。）

である。そして当然、動詞の前に置かれるべきである。

7) 彼女が作ったものを私たちは食べる。

（誤）她做什么，就我吃什么。

（正）她做什么，我就吃什么。

前をうけて、後節の最初、主語の前に副詞‘就’を置いてしまうという、‘就’でよくある誤用のパターンである。副詞‘就’は必ず主語の後ろ、動詞の前に置かなければならない。もし動詞の前に助動詞があれば、さらにその前になる、という原則を覚えておかねばならない。

8) 私は何でも知っている。

（誤）我都什么知道。

（正）我什么都知道。

副詞は主語のすぐ後ろという知識から起こる間違いであろう。‘什么’は‘都’あるいは‘也’の前に置き、例えば、

我什么都不想干。

（私は何もしたくない。）

のように、‘什么+都・也’のかたちで、ある範囲では例外がないことを表し、「いかなるものも」という意味になる。そして傾向としては、どちらかといえば‘都’は肯定、‘也’は否定に用いられるようである。

9) 子どもは満3歳でやっと幼稚園に入ることができる。

（誤）小孩儿满三岁能才进幼儿园。

（正）小孩儿满三岁才能进幼儿园。

‘才’でよくある誤用のパターンである。‘才’は副詞であるから、必ず主語の後ろ、動詞

(この場合‘进’)の前に置かなければならない。もし動詞の前に助動詞(この場合‘能’)があれば、さらにその前になる、という原則を覚えておかねばならない。

10) 今になってやっと私は彼女が誰であるか分かった。

(誤) 直到现在, 才我知道她是谁。

(正) 直到现在, 我才知道她是谁。

これも先ほどの‘就’と同じく、前をうけて、後節の最初、主語の前に副詞‘才’を置いてしまったパターンである。「やっと」というニュアンスを思わず冒頭に置きたくなるのはありがちなことである。副詞‘才’は必ず主語の後ろ、動詞の前に置かなければならない。もし動詞の前に助動詞があれば、さらにその前になる、という原則を覚えておかねばならない。

11) 万一大学に合格しなかったら、どうして両親に申し訳がたとうか。

(誤) 万一不考上大学, 怎么能对得起父母。

(正) 万一考不上大学, 怎么能对得起父母。

‘考’は「試験を受ける」ことで、‘考上’は「試験に受かる」ことである。‘没考上’は「試験に受からなかった」となる。‘考上’はあいだに成分‘不’が入ることができ、‘考不上’となる。‘考不上’は「試験に受からない」ということである。同じ誤用のパターンで、

(誤) 谁也不看清谁的表情。

というのがあるが、これももちろん‘看不清’(ちゃんと・はっきりと見えない)とすべきところである。

2. 語彙での間違い

ある日本語の文を中国語に翻訳させたとき、文法的というか語順の上では正しい中国語の文を完成させているのであるが、一部の語彙が正しくないか、微妙にずれているケースを幾つか紹介する。

まず、授業では新しい語彙が出ると、教科書の本文やポイントを通して教える側が随時説明を行っている。しかし復習、暗記の段階で、学習者は語彙を覚える際、‘以为’イコール「思う」のように、語彙レベルで外国語と母語を1対1で記憶するというやりかたが殆どで、数ある用例までは手がまわらない、或いは無視しているというケースがほとんどであろう。例え

ば‘以为’イコール‘思う’と覚えると同時に‘认为’も‘觉得’も‘想’もみな「思う」なのである。細かなニュアンスの違いは気になりつつも、しばし棚上げということである。また、見た目が似ている語彙を混同して覚えていることもある。こうした場合、中国語から日本語に翻訳をする場合には、あまり目立った不都合が現れることは少ない。しかし、逆に日本語から中国語に翻訳する場合には困ったことになるのである。各語彙の細かな区別をきちんと把握していないために、時としてつぎのような誤用を生じる。以下、それぞれ個別の例について考えてみることにする。

1) 【认为, 觉得, 想, 以为, 看】

私は彼が本当に禁煙したと思っていた。

(誤) 我认为他真的戒烟了。

(誤) 我觉得他真的戒烟了。

(誤) 我想他真的戒烟了。

(正) 我以为他真的戒烟了。

‘认为’‘觉得’‘想’‘以为’、それに‘看’は、いずれも日本語では「思う」と言うことができる。日本語の「思う」は「考える、推量する、感じる」などの意味で使われる。中国語ではこのいろいろな「思う」を‘认为’‘看’‘觉得’‘想’‘以为’がそれぞれ分担している。まず‘认为’‘看’は、例えば、

他们认为旅行结婚有几个好处。(8課)

(彼らは旅行の結婚は幾つか良いところがあると考えている。)

我看还是你自己去的好。

(私はやはり君が自分で行くのがいいと思う。)

のように、人や事物に対してある見方をしたり評価行為の判断を下して「…と思う」ことであり、「…ではないだろうかと思う」のではない。‘觉得’も同じく、例えば、

我觉得淋浴又方便又干净。(6課)

(私はシャワーは便利だし清潔だと思う。)

のように評価の判断を下して「…と思う」ときに使われる。また判断が話し手の推量によって下された場合は、例えば、

我想她们年轻时代缺乏色彩，成了终生遗憾。（14課）

（私は彼女らが若い時分には色彩が乏しかったので、一生の心残りになったのだと思う。）

のように‘想’が使われる。‘以为’は‘认为’よりも控えめながら基本的には、人や事物に対してある判断を下すことを表すが、‘以为’にはまた事実と合わない判断を述べる場合があって、「思い込む」と訳せる。例えば、

我以为她想家，从学校的图书馆里借来一些小说让她看。（5課）

（私は彼女がホームシックだと思っていたので、学校の図書館からちょっと小説を借りてきて彼女に読ませた。）

冒頭の「私は彼が本当に禁煙したと思っていた」の「思っていた」には‘以为’が相応しい。

2) 【因为，由于，为了】

仕事の関係で、彼はとても多くの宴会に出なくてはならない。

（誤）为了工作关系，他要出席很多宴会。

（正）因为工作关系，他要出席很多宴会。

（正）由于工作关系，他要出席很多宴会。

「…のために」は、日本語では「ある原因のために」という意味と「ある目的のために」という意味との2通りに解釈できる。中国語の‘为了’‘因为’‘由于’は日本語ではいずれも「…のために」と言うことができるが、‘为了’は普通は目的を表す。例えば、

为了让她学好英语，妈妈特意买了台收录机。（12課）

（彼女に英語をマスターさせるために、お母さんはわざわざラジカセを1台買った。）

また‘因为’‘由于’は、例えば、

因为天气的关系，飞机不能按时起飞。

（天気の関係で、飛行機は定刻通りに離陸できない。）

由于得了气管炎，大夫让小李戒烟。（10課）

（気管支炎になったので、医者は李さんに禁煙させた。）

のように普通は理由を表す。

3) 【一定，必須，应该】

私たちは必ず図書館に行く。

(誤) 我們必須去圖書館。

(誤) 我們應該去圖書館。

(正) 我們一定去圖書館。

‘必須’は「必ず…ねばならない」というように道理上必ずしなければならないことを表し、
‘应该’はそれに加えて「(状況から判断して) 必ず」という意味を表す。例えば、

我們必須堅持真理。

(我々は真理を堅持しなければならない。)

學習應該認真。

(勉強は真面目にせねばならない。)

按理說，女人應該在這一天的好好地休息休息。(13課)

(道理から言えば、女性はこの日いちにちちゃんと休まねばならない。)

である。一方‘一定’の「必ず」は意志が固いこと、あるいは「必然」を表すのであって、道理上の義務はない。例えば、

我一定照辦。

(私は必ずその通りに処理する。)

堂弟他們倆懂得藝術，一定會很高興的。(8課)

(いとこたち2人は芸術がわかるから、きっと嬉しさに違いない。)

また、さらに‘一定’に‘要’がプラスされて‘一定要’となったときは、例えば、

特別是舉行婚禮時，一定要選擇“雙日”。(11課)

(特に結婚式をするときは、必ず「偶数日」を選ばねばならない。)

のように‘必須’と同じ意味になる。

4) 【过, 过~了】

彼は煙草を吸ったことがある。

(誤) 他抽过烟了。

(誤) 他抽过了烟。

(正) 他抽过烟。

日本語の「…たことがある」は中国語では経験相を表す‘过’で表される。例えば、

这本小说我看过。

(この小説は読んだことがある。)

である。もう1つ‘过+了’は動詞のあとに用いて、その動作をすませることを表す。例えば、

赶到那儿，第一场已经演过了。

(そこに駆けつけたら、序幕はすでに終わっていた。)

である。しかしこの誤用のケースは‘过’そのものに問題があるのではない。おそらく、日本語の文を見てまず「かれは煙草を吸った」を‘他抽了烟’と訳して、さらに「…たことがある」の‘过’をつけたか。あるいはすでに起きた動作には一律‘了’をつける癖が付いてしまっているかである。本当は‘了’をどのように用いるかを学習するときに、どんなとき‘了’を使ってはいけないかも示しておく必要がある。

5) 【麻烦, 照顾】

私はどうしてあなたに面倒をかけられようか。

(誤) 我怎么能照顾你呢。

(正) 我怎么能麻烦你呢。

両方とも文法的には正しいが、上は「私はどうしてあなたの面倒をみられようか」という意味になり、上の日本語の翻訳としてはおかしい。問題は「面倒を…」にある。面倒は面倒でも、「(他人に)面倒をかける」ほうは、‘麻烦’で、例えば、

这件事你还是自己干吧，不要麻烦别人。

(このことは君はやはり自分でやりなさい。他人に面倒をかけてはいけない。)

と言える。また「(他人のために) 面倒をみる」ほうは‘照顾’で、例えば、

照顾带小孩儿的。

(子ども連れの人を優先する。)

照顾病人。

(病人の面倒をみる。)

と言える。上の日本語は「(あなたに) 面倒をかける」のであるから当然、

我怎么能麻烦你呢。

(私はどうしてあなたに面倒をかけられようか。)

とするのが正しい。同じ「面倒」でも、相手に迷惑をかけるのと、相手のためを思うのとは、全く違うことばで表現しなければならないのである。

6) 【困，睡觉】

私は本を読むとすぐに眠くなる。

(誤) 我一看书就睡觉。

(正) 我一看书就困。

これはあり得ないような例であるが、おそらく「眠」という漢字から、無意識に‘睡觉’が出てきてしまったものであろう。‘睡觉’の方は「睡眠」の意味と「就寝」の意味がある。例えば、

睡了一觉。

(ひと眠りした。)

该睡觉了。

(もう寝なければ。)

‘困’は「眠くなる」の意味で、例えば、

孩子困了，该睡觉了。

(こどもが眠たがっているから、寝かせなければ。)

という文で‘困’と‘睡觉’を同時に覚えておけばよい。

7)【怎么，什么】

どんな話題に対しても，私たちは興味を持っている。

(誤) 对怎么话题，我们都感兴趣。

(正) 对什么话题，我们都感兴趣。

基本中の基本の疑問詞で，‘怎么’‘什么’どちらも初級のうちに必ず出てくることばで，普通‘怎么’は「どのように」，‘什么’は「なに」という意味だけを覚えてしまうことが多い。上の誤用の例は，「どんな」を「どのように」と一緒にして‘怎么’にしてしまうという割と多いパターンである。しかし‘怎么’は，例えば，

你怎么来的？

(あなたは どうやって来たの？)

你怎么来了？

(あなたは どうして来たの？)

你怎么了？

(どうしたの？)

のように，主なものだけでも「方法」「原因・理由」「述語で状況を問う」ものがある。‘怎么’に「どんな」の意味が無いことはないが‘怎么一回事’のように‘怎么＋(一)＋量詞＋名詞’という形に限られる。一方，‘什么’のほうは，

你找什么？

(あなたは 何をさがしていますか？)

你找什么人？

(あなたは 誰をさがしていますか？)

你要不要吃点什么？

(何かちょっと召し上がりませんか？)

のように主なところでは事物を尋ねる「なに」、名詞の前において疑問を表す「どんな」、不確定の事物の「なにか」がある。

‘怎么’‘什么’については同じところで、幾つも用例を挙げて練習しておく必要があろう。

8) 【只要，只好】

仕方がないので、並ぶしかない。

(誤) 没有办法，只要排队。

(正) 没有办法，只好排队。

あるいは「しかない」を「ただ」プラス「しなければならない」と考えて、‘只’プラス‘要’で‘只要’としているのかもしれない。また、あるいは「しかない」を「ただ」プラス「しなければならない」と考えて、‘只’プラス‘要’で‘只要’としているのかもしれない。類義語でもないし、間違はずのないものと思っていたが、意味がかけ離れていても形の似たものは案外、つまりくところなのかも知れない。見た目が似ているために間違うケースである。‘只…’の形では‘只要’‘只好’‘只有’が主なところであろうから、似たものは1度に説明する必要があるかもしれない。‘只要’は「…さえすれば」、‘只好’は「…するほかない」、‘只有’は「ただ…だけが…だ」である。『現代漢語八百詞』では、それぞれつぎの例文が示されている。

只要下功夫，你就一定能学会。

(努力しさえすれば、君はきっとマスターできる。)

我不懂法语，只好请他翻译。

(私はフランス語ができないから、彼に翻訳してもらおうしかない。)

只有他爱人才最了解他的脾气。

(彼の気性を最もよく理解しているのはただ彼の奥さんだけだ。)

もちろん‘只要’には接続詞以外に、副詞‘只’が動詞‘要(ひつようだ)’を修飾して、「ただ…だけが必要だ」となる用例があることも付け加えておく必要がある。

3. 日本語に翻訳する場合で最も迷う例として‘也’

中国語から日本語への翻訳は、2年生ではほぼ間違いなくこなしていると最初に言ったが、それでも割合にひっかかる例として‘也’が挙げられる。「…も」と覚えておけば良いかと言

えばそうでもなく、例えば、『中日辞典』（小学館）の‘也’の項をみても見出しの説明に約1ページを費やしている。‘也’の意味は大まかには3つに分けられて、例えば、

男人也分担家务，可以说是男女平等。（13課）

（男性も家事を分担し，男女平等と言うことができる。）

但是一想到冰冷的水，怎么也下不了决心。（6課）

（しかし冷たい水のことを思うと，どうしても決心がつけられない。）

这话一点儿也不错。（14課）

（この話はちょっと間違いない。）

のように「2つの事柄が同じであること」「事実や仮定に関わりなく結果は同じ」「…さえも、の意味を表し語気を強める」ことをそれぞれ表している。特に「事実や仮定に関わりなく結果は同じ」のものは普通は‘怎么也’‘什么也’‘哪儿也’などのように前の疑問詞に助けられて「どうしても」「なんでも」「どこでも」と素直に訳せる。

それから、3年生の授業で使った映画『城南旧事』の台本には次のような‘也’が出てくるが¹⁾、これは誤訳が多い。と言うより、ほとんど正しく訳せなかった例である。

这个，你还小，跟你说了你也不懂。（72頁）

（これは，お前はまだ小さいから，お前に言っても分らんよ。）

为什么，为的是，啊呀，说了你也不懂。（107頁）

（なぜかって。それは，ああ，あなたに言っても分からない。）

一応習ってはいるはずなのだが，この‘也’については案外見落とされがちで，意外な落とし穴となっている。‘也’は一見単純ながら，全体から文脈を理解する力を付けないとなかなかちゃんと翻訳できない厄介なことばではある。

4. さいごに

語学の学習では，母語である日本語の十分な力が必要であることは言うまでもない。しかし，本稿で触れてきたような誤用例の多くが示すように，ときには母語の存在が正しい理解の障碍になっている。また意味が全く違うものでも，見た目が似ているために誤用するケースもある。学習者が十分な成果を実感できるためには，辞書やテキストで自分でこつこつ予習，復習を心がけることが第一であろう。同時に，辞書やテキストが役割や分量の制約上，こまめに触れられないところは，我々教える側の者が，学習者の「痒いところに手が届く」説明を

心がけねばならないだろう。また学習者のほうも、ある一定の段階からは項目対項目の暗記（語学の学習には必要なこと）に加えて、ことばを構造的に捉える²⁾ 習慣を身につけてもらわねばならないし、そう導かねばならない。以上、思いついたままをとりとめもなく記して、全くまとまりのない体裁となったが、ほんの少しでも今後役に立てばと願うばかりである。

注

1) 映画『城南旧事』の台本に出てくる‘也’は19例で全ての用例は次の通りである。左端の数字は台本のページである。

P22 你要是见到我的小桂子，赶紧叫她回家。我不打她，也不骂她。

P25 打听打听南城哪个小学好，他该进学堂了。

P27 你这人真是·闲事管得也太多了。

P33 我们从前也不住在这儿，我们住在齐化门那边儿。

P40 再过一个月就要考小学了，也不知道在家好好认认字。

P43 我不是我妈生的，我爸也不是亲的。

P49 我，我死也不回去了，我是来跟你说一声，我要找我的亲爹妈去。

P64 今天上课，我一句话也没说。

P71 咱们也得加点小心，大门上的锁，坏了有个把月了。

P72 这个，你还小，跟你说了你也不懂。

P76 厂甸小学，嘿，我弟弟也在那儿念书。

P84 那掺野菜的窝头，你连见也没见过吧？

P84 我妈不知道我干这一路，我弟弟也不知道。

P85 我们有一课书叫‘我们看海去’，可我没见过海，我分不清海跟天，我也分不清好人跟坏人。

P89 别说左邻右舍的眼杂，就是自己家里的孩子，佣人听见，看见也不好。

P107 为什么，为的是，啊呀，说了你也不懂。

P124 不回去了，死也不回去了。

P128 自从一年级，那次下雨我想逃学，不起床，挨了你打以后，我再也没迟到过！

P129 打得好疼啊，想忘也忘不了。

2) 鈴木孝夫1973によれば、ことばを構造的に捉えるための教育や辞典の編集のあるべき方法は「あることばの内容を有効に理解するためには、そのことばの使い方を規定している、必要にして、十分な条件を発見し記述すること」である。これは、そのまま学習者が外国語の学習に対して持つべき姿勢でもあろう。

《使用したテキスト》

荒川清秀・趙 宏・上野由紀子1992『中国一人と暮し』（光生館）

上海電影製片廠1982『城南旧事』電影完成台本

《参考文献》

鈴木孝夫1973『ことばと文化』（岩波新書）

呂叔湘主編1980『現代漢語八百詞』（商務印書館）